	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合
発熱時の対応	○ 24 時間以内に 38℃以上の熱が出た場合や、又は解熱剤を使用している場合。 ○ 朝から 37.5℃を超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が摂れていないなど全身状態が不良である場合。	○ 38℃以上の発熱があり、 ・元気がなく機嫌が悪いとき ・咳で眠れず目覚めるとき ・排尿回数がいつもより減っているとき ・食欲なく水分が摂れないとき ※熱性けいれんの既往児が37.5℃以上の発熱があるときは医師の指示に従う。
咳の時の対応	○ 夜間しばしば咳のために起きる、ゼイゼイ音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある、呼 吸が速い、少し動いただけで咳が出るなどの症状がみられる場合。	○ 咳があり眠れないとき ○ ゼイゼイ音、ヒューヒュー音があるとき ○ 少し動いただけでも咳が出るとき ○ 咳とともに嘔 おう 吐が数回あるとき
下痢の時の対応	○ 24 時間以内に複数回の水様便がある、食事や水分を摂るとその刺激で下痢をする、下 痢と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合。 ○ 朝に、排尿がない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状 がみられる場合。	○ 食事や水分を摂るとその刺激で下痢を するとき ○ 腹痛を伴う下痢があるとき ○ 水様便が複数回みられるとき

	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合
嘔吐の時の対応	○ 24 時間以内に複数回の嘔吐がある、嘔吐と同時に体温がいつもより高いなどの症状が みられる場合。 ○ 食欲がなく、水分も欲しがらない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりして いるなどの症状がみられる場合。	○ 複数回の嘔吐があり、水を飲んでも吐くとき ○ 元気がなく機嫌、顔色が悪いとき ○ 吐き気がとまらないとき ○ 腹痛を伴う嘔吐があるとき ○ 下痢を伴う嘔吐があるとき
発しんの時の対応	○ 発しんが時間とともに増えたとき 発しんの状況から、感染症の可能性を念頭におき、対応すること ※発熱やかゆみには個人差がある ※ 食物摂取後に発しんが出現し、その後、腹痛や嘔吐などの消化器症状や、息苦しさな どの呼吸器症状が出現してきた場合は、食物アレルギーによるアナフィラキシーの可能 性があり、至急受診が必要となります。（参照：「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」	○ 発熱とともに発しんのある場合。 ○ 感染症による発しんが疑われ、医師より登園を控えるよう指示された場合。 ○ 口内炎がひどく食事や水分が摂れない場合。 ○ 発しんが顔面等にあり、患部を覆えない場合。 ○ 浸出液が多く他児への感染のおそれがある場合。 ○ かゆみが強く手で患部を掻いてしまう場合。

保育所における感染症対策ガイドライン（2018 年改訂版）より一部抜粋